

2023年10月号 FP 武蔵野グループ



変わるお墓

樹木葬は鎌倉新書が2023年1月に発表した
「【第14回】お墓の消費者全国実態調査(2023年)」
では次のように報じられています。

- 第1位 樹木葬が占めるお墓の割合が50%を超え
- 第2位 納骨堂など
- 第3位 伝統的な家墓

背景としては以下が考えられます。

- ・ライフスタイルの変化
 - ① 少子高齢化 ②お寺との付き合いがない ③自然に還りたい
- ・医学・科学の進歩
 - ① 長寿の実現 ②出生証明書、死亡診断書は医師の役割
- ・お寺自体の減少
 - ①お寺の後継者不足 ②供養の必要性が薄れる ③お墓やお寺は必要か

⇒後継者、お墓、管理不要、の自然葬

「樹木葬」という名前は知っているが実際に見たことは無い
実際に行ってみると感じる点が多い
等の感想をいただいています。

「樹木葬」は、岩手県一関市にある大慈山祥雲寺(長倉山知勝院)において 1999 年に日本で初めて導入されたといわれています。

ここでは里山の林の中に、ヤマツツジなど花の咲く低木を墓標として、その根元に遺骨を直接埋蔵する里山形式と言われています。

墓石の代わりに樹木や草花を墓標とする形式などがあります。

都立小平霊園に樹林墓地、樹木墓地が創られ、都立多摩霊園にも樹林墓地が作られ、公営墓地という安心感と時代の変化もあり広がりが加速しました。

自然葬とは

現在、人気のあるお墓の形式は自然葬といわれていますが、自然葬も多種多様です。

- ・樹木葬、樹林葬
- ・草花葬、ガーデニング墓地
- ・海洋葬
- ・宇宙葬など

- ・納骨堂
- ・合同墓
- ・合葬墓なども作られている



都立多磨霊園 みたま堂 納骨堂



都立多磨霊園 みたま堂 納骨堂のモチーフ



都営多磨霊園 樹林型合葬枚数施設二号基

ご自身がイメージするものと一致するかは霊園やお寺により決まりがありますので、ご自身で確認されることをお勧めします。

従来のお墓にこだわらない樹木葬の特徴

- ①墓石の代わりにシンボルツリーとして樹木や草花などを使用
- ②里山型、樹木葬型、ガーデニング型など形態はさまざま
- ③継承者が不要…家墓ではなく個人の墓
- ④宗教不問多い
- ⑤永代供養墓だが、一定期間後合祀されることが多い
- ⑥生前申込ができることが多い
- ⑦支払は墓所の利用料のみ

私が以前知らなかったように、お墓を持つには継承者が必要なのです。
ひとり暮らしが増えた現在には結構高いハードルといえます。

2023年10月23日の朝日新聞の記事に「公費で葬祭費負担は過去最多で 昨年度5.2万件110億円」との記事が目にとまりました。

「無縁遺骨の保管に苦慮している。家族の甲いを前提とした今までの方式では対応ができなくなってきており、保管場所も満杯になる」と書かれていました。

おひとり暮らし、子供の手を煩わせたくないなどの方は最後にご自分の身の始末もきちんと考えておきましょう。

お墓のセミナーの終了後に高齢者がつぶやいた言葉が印象に残っています。

「昔の人はただ死ぬだけでよかったのに、今は自分で死んだ後のことを考えておかないといけないのね。面倒くさいこと」

確かにそうですね。